

# 「重茂レンジャー」になるには

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：宮古市重茂半島における自然保護ファシリテーター(重茂レンジャー)の養成

研究代表者：総合政策学部教授 平塚明

課題提案者：重茂漁協 野崎拓司

研究メンバー：NPO法人AEA 管信利

技術キーワード：生物多様性、環境教育、ビオトープ、絶滅危惧植物

## ▼研究の目標

宮古市重茂鵜磯を舞台に、自然保護ファシリテーター(重茂レンジャー)を養成する。環境資源(植物、野鳥、海生生物、昆虫、地質・地形)を調査、発掘しながら、活動拠点としてのビオトープを設置する。環境教育の方法についても学ぶ。レンジャーの活動は、生物多様性を重視した地域が産み出す海産物などの「重茂ブランド」をさらに強化する。

## ▼研究の方法

1. 市民から受講生を募る。専門家による連続講座を開催し、生物学や環境教育のトレーニングをおこなう。
2. 湿地ビオトープを設置する。三陸一帯で津波により一時的に復活した絶滅危惧植物ミズアオイを救出し、ビオトープに移植する。

## ▼研究の成果

1. 二名の重茂レンジャーが誕生した。最終回では、地域の子どもたちを対象に、環境教育を実践し、地域イベントとしても成功した。
2. 生物の種など環境資源のリストアップが進んだが、参加者の生活者としての豊かな知識もデータに加わった。
3. ビオトープを設置し、ミズアオイを移植したが、台風10号の被害を受けた。

## ▼おわりに(今後の展開)

1. 鵜磯浜から月山山頂に至る範囲のナチュラルトレイルの設置と整備、環境資源リストの充実に、卒業したレンジャーたちも参加する。
2. 重茂半島に人を惹きつけるためのエコツアーコース、とくに海路を開発する。



図鑑で海の生物を同定



植物を食べる虫探し



叩き網(ビーティングネット)の説明



海を眺めながらの講義



地元の子どもたちと環境学習ゲーム